

## 9 報告会 要旨

*San-En-Nanshin Summit 2016 in Higashimikawa*

- 各分科会の報告
- サミット宣言
- 次回開催地域代表あいさつ

### ■ 「道」 分科会

コーディネーター／豊橋市 佐原市長



「道」分科会のコーディネーターを務めさせていただきました豊橋市長の佐原でございます。それまでは「山・住」分科会でありまして、3年ぶりに「道」分科会を担当させていただきました。

道の大切さについては、皆様方、誰も異存のないところだと思います。2日前、新東名高速道路の開通式がありました。岡崎は浜松市長さんにお任せして、私どもは設楽原のほうにお邪魔させていただきました。元国土交通大臣の太田先生と一緒にさせていただきましたが、そのときに、「おい、今は何が足りないのだ」と言われました。間髪入れずに、「まず、道ですね」という話をしました。

「生活をするにも、産業を育てるにも、文化交流をするにも、何においても、つながっていないことには私たちは何もできないのです」というお話をさせていただきました。

こうした意味で、今日、「道」の分科会をコーディネートさせていただいて、その中で、とても強く感じたことは、古くは天竜川、そ

して、豊川の水運を使い、この地域の産業を支え、そして、生活となりわいを支えてきた地域であります。そして、飯田線ができて、飯田線が使われて、人がさらに大きく動くようになりました。実は、豊橋市には南信地域から嫁いで来られた方たちがたくさんいらっしゃいます。私たちが普段つき合っている方の中にも、「生まれは飯田だよ」、「駒ヶ根だよ」とかということをおっしゃる方が沢山いらっしゃいますし、私たちのまちの一部地域は、東栄町や豊根村出身者の方が大半を占める地域もあるわけであります。

今、産業構造、そして、社会構造が大きく変わって、道がつながっていかなければ、私たちの地域をつなぐことは非常に困難だということを多くの方たちが意識されるようになったかと思います。こうした意味では、三遠南信自動車道を初めとして、この地域がつながることは、私たちこの地域の人間が持つDNAを最も刺激する出来事であるかなと思って、たくさんの参加の方たちからご意見をいただくことができました。

この地域をつなぐ基幹道路を使って、観光、産業、そして防災、さまざまな面で現実に起きていることのご紹介、これから活かして取り組んでいきたいことのご紹介等々の意見を賜ったところでございます。

あわせて、こういった道路のネットワークとともに、飯田線を活用しようではないか、この地域を活かしたサイクリングとか、いろいろな新しい観光のスタイルを提案できないだろうか等、こういった意見もたくさん賜ったところであります。

各地域、この三遠南信自動車道、新東名高速道路、東名高速道路、そして、国道23号バイパス、浜松三ヶ日湖西豊橋道路（浜松三ヶ日・豊橋道路）、こういった道路の重要性をみんなで再確認をさせていただいたところでございます。

こうした議論を受けまして、本日の「道」分科会の成果について、以下の3点にまとめさせていただきました。

まず、1点目といたしましては、新東名高速道路の開通や三遠南信自動車道の整備により、中央自動車道、東名高速道路、浜松三ヶ日湖西豊橋道路（浜松三ヶ日・豊橋道路）などの広域幹線道路ネットワークと、将来的にはリニア中央新幹線飯田駅と連結することにより、沿線地域の交流にとどまらない広範な交流ネットワークが期待されるということです。

2点目といたしましては、三遠南信地域の南北軸の交通基盤である飯田線を活用し、広域的な観光資源化を図るとともに、有機的に幹線道路とを結びつけ、リニア開通後の経済効果が三遠南信地域へ波及する取り組みを進めることが重要であることです。

最後の3つ目といたしまして、医療機関への搬送路や災害時における緊急輸送路の確保の観点からも、この地域のDNAをつなぐ三遠南信自動車道の整備促進が重要であり、三遠南信地域の創生の観点から、三遠南信地域の圏域内外を結ぶ広域幹線道路ネットワークを活用し、地域への新たな人の流れづくりに結びつけることが重要であること、加えて幹線道路へのアクセスを確保するための周辺道路の整備も重要であることです。

以上、3点にまとめさせていただきまして、「道」分科会の報告とさせていただきます。

ご議論いただきましたこと、また、傍聴いただきましたことに、あわせて心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

## ■ 「技」分科会

コーディネーター／株式会社サイエンス・クリエイト  
白坂常務取締役



「技」分科会のコーディネーターをさせていただきましたサイエンス・クリエイトの白坂と申します。

大変議論が盛り上がりまして、時間を超過してしまって、ほんの10分前まで議論を続けておりまして、やっと終わりました。

「技」分科会から、今回の議論のテーマでもあります「地域の産業集積を活かした新たな雇用の創出」に関する議論の内容を報告させていただきます。

まず、豊橋市の加藤産業部長から、「豊橋市における海外展開の取り組み」について、ご報告いただきました。

その後、雇用創出につながる新しい価値創造、新産業をつくり出すために、地域ブランドの育成、あるいは海外を含めた販路の開拓が重要になって参りますが、三遠南信地域で行われている地域ブランド育成、販路開拓が雇用や地域への新しい人の流れの創出につながった具体的な事例と、そのための課題について議論を開始しました。

豊川商工会議所の日比会頭には、豊川特産品のブランド化の取り組みについてご報告いただき、蒲郡市商工会議所の小池会頭には、蒲郡での「みかわdeオンパク」の取り組みについて、具体的にご報告をいただきました。

また、三遠南信地域としてのブランドづく

りについてのご提案もございました。

次に、長野県の中川村の曾我村長よりは、地域へ工芸作家あるいはアーチストが集まるまちづくりの取り組みについてご報告をいただきました。

さらに議論を進め、地域ブランドの育成や、販路開拓を進める場合、圏域内で連携して取り組むべき課題について意見交換を実施しました。

初めに、豊橋商工会議所の吉川会頭より、東三河地域でのものづくり企業の育成、また、食と農にかかわる新価値創造、新商品・サービス創出の取り組みについて、次に、新城市商工会の本多会長には、新東名高速道路を活用した地域への人の流れづくりについて、ご報告をいただきました。その後、天龍村柚餅子生産組合 関組合長からは、地域の食文化を活用したブランドづくりについて、ご報告をいただきました。最後に、労働者の定住を促進するための地域の魅力づくりにつなげるべく、地域に存在する特色ある産業や、その集積を活かして、地域のブランド育成や販路開拓をしていくに当たり、三遠南信地域全体として何をなすべきかについて議論を深めました。

具体的には、まず、湖西市の三上市長から、新たに観光という分野で産業化を図り、雇用の創出につなげていく取り組みについてご報告をいただき、次に、磐田商工会議所の高木会頭からは、光技術の農業への応用・活用等を通じた農商工連携による産業振興活動についてご報告いただきました。そして、田原市商工会の河合会長には、地域資源である農産物を原材料とした新商品開発を通じたブランド化への取り組みについてご報告いただき、長野県の豊丘村の下平村長には、リニア中央新幹線の開業や三遠南信自動車道の開通に備えた雇用創出への取り組みをご紹介いただきました。最後に、NPO法人森づくりフォーラム 原田副代表理事には、再生可能エネルギー

を活用した地産地消による雇用創出について報告をいただきました。

これら議論を通じて、各地域には地域資源を活用した特色ある産業が存在しており、そういう地域産業の特色を活かした地域ブランドの育成や販路開拓に向けた取り組みが行われていたり、予定されていることがわかりました。

また、こうした活動を三遠南信地域全体で支援するための取り組み、特に、それを支える人材の育成が求められていることもわかりました。

こういった議論をまとめますと、大きく下記の3点に集約できると思います。

1番、三遠南信地域創生を図るため、地域内に雇用を創出し、新たな人の流れをつくることが求められます。

2番、雇用を創出し、新たな人の流れをつくるためには、それぞれの地域が有する特徴ある産業や歴史、文化、風土に根ざした魅力ある地域資源を活用し、三遠南信地域内での連携、例えば、マッチング、産業の集積などにより、新たな価値を加えた産業、商品、サービスに発展させていくことが有効あります。

3番、合わせて、これら新産業、商品、サービスを創出するための人材育成及びその確保が極めて重要であり、引き続き三遠南信地域内の大学、行政、企業、市民団体が連携しながら仕組みづくりを進めていくことです。

以上で、「技」分科会の報告とさせていただきます。ありがとうございました。

## ■ 「風土」分科会

コーディネーター／野外教育研究財団  
羽場理事長



「風土」の報告をさせていただきます。

昨日は、春一番ということで、全国に風速30メートルというような風が吹き荒れましたけれども、本日、風土の会場は、先ほどもアナウンスがございましたが、とても熱気ムンムン、中身はとても濃いものでございました。

行政関係者が5名、経済界が2名、市民団体2名、コーディネーターと、それから、今日の基調講演者の須田先生含めまして、12名で、本当に楽しく、和氣あいあいと、いい話し合い会合が行われました。

まず、浜松市の山下文化振興担当部長から私たちの風土の歴史・文化・自然資源の活用の状況などをモデルケースとして発表していただきました。これをもとに、順次、皆さんと議論を重ねていったわけでございます。

1つ目は、発表者の皆さんの文化資源がどのような状況にあるかということをお尋ねいたしました。

そして、2つ目の話題は、それらがどのように連携しているのか、いないのか、あるいは可能性はどうなのかという話をいたしました。

最後ですが、それらをこれからどうしていくのかという話、あるいは、今、こうしているというような話、発展形を目指した事例報告等をいただきました。

会場からもご意見を伺うことができました。大変いいご意見等いただき、また、パネリストも挙手いただきまして、本当に楽しい、有意義な会議になりました。

簡単に報告させていただきますと、各地区においては、後継者難で非常に困っていること、さまざまなお祭り、さまざまな文化をつないでいくのが大変であるという報告がございました。

再確認することは、須田先生の話にもございましたように、日本有数の、世界有数の歴史・文化遺産を持っているのだけれども、それを伝えていくことが非常に難しくなっているということでした。

それから、その後継者を作っていくのに、後継者がないことをまさにばねにして、例えば、観光で来てくださる方、グリーンツーリズムで来てくださる方、そういう方に入っていただいて、つないだらどうだろうかとか、あるいは、そういう方がまた来て演じてくださるとか、さまざまな方法があるというご指摘がありました。

こちら遠州地域においては、さらに19地域を結んだ、そういった後継者育成のシステムもでき始めていますよというご報告もございました。飯田地方でも、やはり、独自にそういった動きが始まっています。

それから、ジオパークとか日本遺産の申請、そういったものも各地区で進めているというご報告等がございました。

特に、花火サミット、この三河遠州に手筒花火の文化が広がり、それが信州のさまざまところに、三国だ、あるいは手づくり花火だという形でつながっております。まさに、私たちの先祖が、江戸時代から、古くは弥生土器、縄文土器、さまざまな文物を通じて交流をしていたわけですが、近いところでも数百年の時間軸で十分交流をしていて、私たちはその恩恵を受けております。それなら、花火サミットをやろうというご意見がございま

した。こういうことはまだたくさん出来るのではないかと存じます。

それから、さまざまなすばらしい歴史・文化資産を点として受け継いでいるのだけれども、一堂にそれをお知らせすることがうまくできていないのではないかと、何か良い方法があるのではないかというようなご意見もございました。

さまざまなお考えを集約しますと、次の3点にフォーカスすることができました。

1つ目は、歴史文化を大切にし、NHK大河等の追い風を逃がさないようにしようということです。後継者難など非常に困難な状況に対して果敢に挑戦しながら、私たちは、民俗文化遺産を守っていく必要があります。

幸いなことに、それらがマスコミに取り上げられております。今は信州が真田丸ということで、三河・遠州の戦場を含めまして、武田信玄や徳川が入り乱れたあの時代がクローズアップされています。来年は「おんな城主－直虎」。まさに、この地域が主場面といいましょうか、主戦場になるわけですね。こういった機会を上手に捉えていきましょうということでございます。

2つ目は、その守っていく運動は、「道」を介してということです。やはり連携、特に、SENAの枠組みが中心になりますと、それぞれのしっかりとやってくださっている活動をつなげていこう、連携していくことなどでございます。

3つ目には、日本遺産です。漠然とした話ではなくて、三遠南信地域の歴史や風土、文化をストーリーにまとめて、日本遺産として登録する活動を目指していきましょうということでございます。

以上、3つのポイントに集約されるに至った次第でございます。

以上をもちまして「風土」の報告とさせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。

## ■ 「山・住」合同分科会

コーディネーター／豊橋技術科学大学

大貝副学長



ご紹介いただきました豊橋技術科学大学の大貝でございます。「山・住」合同分科会のコーディネーターを務めさせていただきました。

今年の「山・住」合同分科会は、「安心して住まうことのできる持続可能な地域づくり」というテーマをいただきました。主要には、この中山間地域での移住・定住をどうやって進めていくか、これがメインのテーマになります。参加いただいた皆様は、市長村長が8名、商工会議所の会頭が1名、住民団体から2名、総勢11名で意見交換をさせていただきました。

限られた時間ではありましたけれども、活発な意見交換が行われて、大変有意義な会になったのではないかと思っております。

まず、NPO法人てほへの副理事長であります大脇 聰様より、「奥三河・東栄町で育まれた26年の軌跡～地域を愛し、土地に根ざす覚悟が未来を創造する～」という題で、みずから活動をされてこられた中での経験をもとに、移住・定住の心構え、あるいは、この三遠南信地域の中山間地域特有の魅力を発見し、それを発信していくことについて、ご報告をいただきました。

大脇様ご自身、この三遠南信地域ではなくて、名古屋方面から、この三遠南信地域に移

住されてきて、もう26年活動されているという方でございます。そういった長きにわたる経験に基づいたご報告をいただき、大変貴重な機会だったと思っております。

続いて、分科会参加者の皆様から、さまざまのご意見をいただきました。移住・定住については、もうそれぞれの自治体のさまざまな取り組みを既になされているところでありますし、そういった実績も徐々に上がってきているというところであります。

そういった取り組みの中から、当地域を知つてもらう、あるいは訪れてもらう機会を創出することで地域へのファンを獲得し、それを契機として移住者を獲得するというような報告がございました。

それから、移住・定住を進めていく、あるいはそれを支援するためには、当然、その受け皿づくりが行政としての役割となってきます。具体的には、子育て支援や住居のあっせん、雇用という意味では、働く場所をどうやってあっせんしていくか、こういった事業がそれぞれ自治体で積極的に取り組まれているということです。そういった成果が徐々に具体的にあらわれて、定住・移住に結びついてきているということです。

ただ、こういったそれぞれの自治体が取り組んでいるわけですけれども、それだけでは、それを促進していくことはできないということでありまして、やはり、道路の整備、あるいはハードだけではなくて、ソフト面での公共交通ネットワークの整備、特にバス等、そういった整備・維持をしていくことも移住・定住のために必要であるというご発言もいただいて、これについては、この三遠南信地域の中で連携をしていく必要があるとのご意見が寄せられたということです。

以上のような意見交換を踏まえまして、今回の分科会としては、次の3点を確認させていただきました。

1つ目としましては、この三遠南信地域、特に中山間地域の持つ魅力的な地域資源や生活での利点、これは徐々に進んでいる道路整備によるアクセス等だと思いますけれども、そういったものを県内外に積極的に情報発信することで、交流人口の増加を図っていくということが第1点目であります。

2つ目としましては、この三遠南信地域だからこそできるライフスタイルというものがわかるだろうということです。それを見出して、その地域内外にこれをPRして、そして、雇用の確保、子育て支援、住居の提供など、移住・定住に通じる事業を展開することで、安心して暮らせる持続可能な地域づくりを推進していく必要があるということです。

最後、3つ目としましては、先ほど申しました地域交通網の整備、あるいは情報通信、こういった社会基盤を維持していくことについては、単独の自治体ではなかなか困難なところもあるということで、ここについては、やはり近隣の市町村と連携しながら進めていく、維持をしていくということが重要だろうという、以上3つの点にまとめさせていただきました。

以上が今年の「山・住」合同分科会のまとめであります。分科会にご参加いただいた皆さん、改めて感謝申し上げたいと思います。どうもありがとうございました。

## ■サミット宣言 豊橋市 佐原市長

三遠南信サミット2016in東三河サミット宣言。

第23回三遠南信サミットin東三河では、「県境連携の蓄積を活かした三遠南信地域の創生～ともに生きる未来を目指して～」をテーマとし、各分科会において現状を確認し、課題解決のための今後の取り組みについて議論しました。

私たち三遠南信地域連携ビジョン推進会議（SENA）は、これまで築いてきた広域的な連携を活かした、時代に合った地域創生への取り組みや連携ビジョンの実現に向け、本日のサミットでの議論を踏まえ、県境広域連携の一層の発展のため、次の事項に重点を置き、事業に取り組みます。

1、三遠南信自動車道、新東名高速道路は、圏域内外の滞留を促す広域幹線ネットワークの形成に重要な役割を果たし、不可欠なものです。また、大規模災害時は、救援活動、物資の輸送、避難路及び救急搬送時にも利用されるなど、「命をつなぐ道」として地域に欠かせない社会基盤です。今後も豊かで質の高い地域社会の実現に向け、三遠南信自動車道の早期全線開通を初め、浜松三ヶ日・豊橋道路の早期実現、さらには、リニア中央新幹線の整備推進を目指し、三遠南信地域連携ビジョン推進会議を中心とし、地域一丸となった提言活動を進めます。

さらに、本地域の南北軸の交通基盤であり、中山間地域住民の重要な移動手段である飯田線の利用促進に向けた取り組みや広域的観光資源としての価値創造を図る活動を通じてリニア効果の地域への波及を導くとともに、住民生活の質の維持・向上を図ります。

2、三遠南信地域の創生に向け、輸送用機器産業など、多様なものづくり、産業集積を維持・強化とともに、成長が見込まれる健康医療産業や航空宇宙産業など、将来を担う新産業について、産学官金の広域連携に基づく戦略的な育成により、地域での質の高い雇用を創出し、地域経済の活性化を図ります。また、本地域内の大学と行政、企業との連携により、地域産業を担う人財の育成を目指したアクションプランを進めます。

3、三遠南信地域への新たな人の流れをつくるため、民間団体とも十分に連携し、自然、歴史、文化、産物など地域資源に加え、平成29年 NHK 大河ドラマ「おんな城主 直虎」を活かした取り組みを進め、持続的な交流人口の拡大を図るとともに、Web 上で特色のある地域産品を紹介するアンテナショップなどにより情報発信力を高めます。

また、本地域で大切に受け継がれてきた貴重な無形民俗文化財を活かし、日本遺産の登録を目指します。

4、三遠南信地域の特性を活かした暮らし方や働き方、さらには子育てなど、ライフスタイルに関する情報発信体制の強化により、交流・連携事業を推進し、中山間地域などへの移住・定住の促進につなげます。

また、安心して暮らせる地域づくりに向け、広域的または局地的な災害に対応する県境を越える防災の連携体制の強化に取り組みます。

5、三遠南信地域連携ビジョン推進会議（SENA）は、事業部会の活動を通じて連携ビジョンの確実な進捗を図ります。また、地方創生への対応など、圏域の課題に対して連携して取り組むことのできる体制の整備を目指し、本地域に適した広域連合のあり方について、速やかに研究会を立ち上げ、平成28年度の実現を目指として各自治体間の協議を加速します。

あわせて、全国のほかの県境地域とも連携し、県境を越えた地域政策のさらなる展開を促進します。

これらの取り組みをここに集うすべての主体が確認し、第23回三遠南信サミット2016in東三河のサミット宣言といたします。

平成28年2月15日

三遠南信地域連携ビジョン推進会議  
三遠南信サミット2016in東三河



## ○次回開催地域挨拶

飯田市 牧野市長



ただいま紹介いただきました飯田市長の牧野でございます。次期開催地を代表いたしまして、一言ごあいさつをさせていただきます。

本日は、三遠南信連携の最大の行事でありますこのサミットが、このように圏域の大勢の皆様方ご参集のもと、熱い議論が交わされる中で開催されましたこと、本当にうれしく、また、ありがたく思うところです。参加された全ての皆様方に敬意と感謝を申し上げます。また、こうした場をしつらえていただきました佐原市長を初め、裏方の事務局の皆様方におかれましても本当にお疲れさまでした。

さて、今回も大変熱い議論が交わされ、また、それを受けた形でサミット宣言がなされました。サミットが23回の積み重ねをしているその間、時代が大きく変わってきたのは、ご案内のとおりです。日本全体が人口減少、少子化・高齢化という大きな時代の波に洗われるその一方で、私たちのこの三遠南信地域におきましては、三遠南信自動車道、そして、浜松三ヶ日湖西豊橋道路（浜松三ヶ日・豊橋道路）の将来に向けての取り組み、そして、リニア中央新幹線に向けての取り組み等々、非常に大きな交通インフラプロジェクトが、着実に進んできております。

そうした中で、歴史も文化も本当に豊かな

この三遠南信地域におきまして、更なる広域連携を図っていく、その必要性を改めて感じているところであります。少し前に浜松市の鈴木市長と豊橋市の木村副市長との3人で、まち・ひと・しごと本部に出向きまして、「広域連携の取り組みに対して、ぜひともご支援をお願いしたい」と申し上げたところ、「そういうことであれば、当然、そうした広域連携の取り組みをやっている三遠南信にも目を向けていきましょう」というお話をいただきました。

時代は、まさに加速していると言っても過言ではありません。国との関係をしっかりと確保していくためにも、私ども行政としましても、更なる連携の強化を図っていかなければいけないと痛感しているところです。先ほどのサミット宣言におきましても、これから研究会を立ち上げて、早急に、どのような形でこの広域連携を進められるかということを話し合い、そして、浜松市長あるいは豊橋市長からもお話がありましたように、国と地方との関係におきましても、まさに県境域を乗り越えた連携が可能であるということを、この三遠南信から全国に発信していくことができれば良いと思うところです。

次回は私ども南信州地域で開催させていただきますが、それまでの間に、ぜひともそうした考え方をさらに煮詰めていただき、次の開催のときには、「私たちはここまで取り組むことができるのだ」ということを発信していくことができれば良いと思います。どうか皆様方のその熱い思いをこれからも持ち続けていただき、次回の南信州における三遠南信サミットでまたお会いできればと、そのように思っております。

今日は本当にありがとうございました。またこれからもどうかよろしくお願ひいたします。